

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	発電用新型炉等開発調査委託費		事業開始年度	昭和58年度		作成責任者
担当部署	研究開発局		担当課室	開発企画課 核不拡散・保障措置室		核不拡散・保障措置室 室長 木村 直人
会計区分	エネルギー対策特別会計(電源開発促進勘定)		上位政策	原子力分野の研究・開発・利用の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	特別会計に関する法律施行令 第51条第6項第5項		関係する計 画、通知等	核不拡散条約(NPT)、日・IAEA保障措置協定、 各二国間原子力協力協定		
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	○六ヶ所再処理施設の操業開始等、我が国のプルトニウム利用が諸外国から注目されている。このような中、IAEAによって未申告のプルトニウム等が検出されるなど、我が国に対し未申告核活動の疑義が生じた場合に、直ちにこれを払拭し得る反証能力の維持することが必要である。このため、当該能力を確保・維持することを目的とする。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	○本事業では、IAEAによる疑惑に対する反証手段を確保・維持するため、IAEAの環境分析能力の強化に対応し、IAEAが導入を進めている超高感度の質量分析技術に対応する粒子ピックアップ法の開発調査、プルトニウム等の由来が特定できる分析法の開発調査及び既存分析手法の適応化試験を実施する。					
実施状況	主に以下の技術開発を実施している。 ○従来不可能であったプルトニウム粒子等の分析法開発調査として、プルトニウム粒子の測定試験。 ○分析手法の継続的改善を目的とした分析手法適応化試験。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	241	241	261	287	263
	執行額	241	240	260		
	執行率	100.0%	99.6%	99.6%		
	総事業費(執行ベース)	266	241	247		
自己点検	支出先・ 用途の把握 水準・ 状況	○事業実施前において、受託者から提出される業務計画により、その内容や予定経費について把握している。 ○事業終了後においては、当該委託費の額の確定調査を現地にて実施し、受託者側の支出関係の証憑類をもとに用途を把握している。				
	見直しの 余地	○クリーンルーム等の保守契約等の適正化を図ることにより必要な経費の削減を行う。 ○超高感度測定技術やプルトニウム粒子等の分析手法の開発調査などを実施するに当たり、既存の経費を効率化し事業に係る全体経費の肥大化を抑制する。 ○応札者の参入を更に促すため、過度な入札条件の禁止、公告期間の確保、分かりやすい仕様書の作成に努める。				
予算 監 査 の 効 率 化	1. 事業評価の観点:この事業は、IAEAからの我が国に対する未申告核活動の疑義が生じた場合に、直ちにこれを払拭し得る反証能力を確保・維持することを進める事業である。 2. 所見:本事業は20年以上の継続事業である。事業の継続の必要性は認められるものの、これまでの事業の成果を適切に検証し、より効果的な事業の実施方策等について検討するとともに、経費の効率化により予算を縮減すべきである。また、応札者の参入を促すため競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性の確保等により、事業の効率化を一層進めるべきである。					
補 記						

文部科学省
260百万円

我が国の原子力発電施設等の安定的な運転を維持するためには、万が一、未申告核活動の疑義が生じた場合に、IAEAに対し速やかに反証できる能力を確保しなければならない。そのため、必要な分析法の調査及び既存分析法の適応化試験等の開発調査を委託。

【一般競争入札・委託】

A. 保障措置環境分析開発調査

支出総額: 260百万円

委託先: (独)日本原子力研究開発機構

- ・Pu/MOXパーティクル分析試験、化学分離法の開発調査
- ・自動制御マニピュレータによる粒子ピックアップ法の開発調査
- ・分析法適応化試験の開発調査 等

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.(独)日本原子力研究開発機構			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	自動制御マニピュレータシステム 等	24			
人件費	業務担当職員	31			
業務実施費	分析装置・研究設備の運転管理 等	184			
一般管理費	間接経費(直接経費の10%)	8			
計		247	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように記
 載)